

えさし



たわわに実った梅を収穫する中学生たち

江刺区田原の大平集落に7月10日、東京都調布市の桐朋女子中学校の生徒27人が一日農村体験に訪れました。農村体験などを通じた地域活性化を目的に、同集落の住民を中心に設立された森の駅・夢楽人の里(阿部永宏代表)が生徒たちを受け入れました。

この日は「森林浪漫体感」と銘打ち、花菖蒲の植栽から始まり、砂金採り体験、郷土料理作りや梅の収穫などを体験。生徒たちは、笑顔で楽しそうに農村生活を満喫しました。同校は、体験型の修学旅行で3泊4日の日程で来県し、県内複数のコースに分かれて体験学習を実施しました。

農村体験に笑顔がいっぱい
田原・大平集落に東京から中学生

まちの話題



安心・新鮮な農産物が自慢

産直施設が連携してPRイベント

第6回アテルイの里産直ラリーの開始式は7月20日、衣川区野田の「産直ころが」(千葉健一組合長、組合員38人)で行われました。

胆江地方産直施設連絡会(佐藤邦夫会長)が主催するこの催しは、地産地消や地域文化継承の拠点として期待される産直施設のPRと、安全・安心の地場農産物の提供を目的に8月24日までの期間開催するもの。ラリーには胆江地区の産直施設14店舗(市内13店舗、金ケ崎町1店舗)が参加しています。3店舗分のレシートを応募券に添えて、店舗内の応募箱に投函すると抽選で買い物券などが当たる仕組みです。

千葉組合長は「地震の際には、給水活動など多くの皆さんのお世話になった。このイベントではオープン1周年感謝祭と併せ、震災復興イベントとして元気に明るくお客さまを迎えたい」と話していました。



佐藤会長からラリーの応募箱を託される千葉組合長(左)

ころもがわ

心の早期復興を願いながら 南股地区センターで無料上映会

大スクリーンで楽しむ住民たち



岩手・宮城内陸地震の復興支援を目的に7月29日、映画「川の流れるように」の無料上映会が南股地区センター体育館で開催され、子どもからお年寄りまで約70人が夏の夕べを楽しく過ごしました。

上映会は、ことし3月の同地区センター開館記念行事の際に縁ができた(株)シネマとうほく(鳥居明夫代表取締役)が、衣川区の被害を知って見舞いと復興支援を目的に企画。南股地区会が準備をするなどして実現したものです。開演前にあいさつをした同社盛岡営業所の中山通子所長は「笑って泣いて映画を楽しんで元気になるってほしい」と心の早期復興を願っていました。

宇宙のロマンぐっと身近に いわて銀河フェスタ2008

いわて銀河フェスタ2008(国立天文台、市教育委員会など主催)は8月3日、国立天文台水沢VERA観測所敷地内で開かれました。直径20cmの電波望遠鏡や耐震補強工事を終えた木村記念館が一般に公開されたほか、月周回衛星「かぐや」の成果発表なども行われ、多くの家族連れや天文ファンでにぎわいました。

4月にオープンした奥州宇宙遊学館も無料で公開され、4次元シアターや体験コーナーなどで宇宙の魅力を紹介。胆沢区から訪れた佐藤美慧ちゃん(9)・轟那美ちゃん(6)姉妹は「月の模型とかいろいろ触ることができて楽しかった」と笑顔を見せていました。

子どもたちにぎわった宇宙遊学館



みずさわ

まえさわ

色とりどりの旗が大空乱舞 前沢よさこいフェスタIV

女性旗手も参加した特別演舞



前沢よさこいフェスタIVは7月6日、区内のアスティ商店街やジャスコ前沢店駐車場、前沢ふれあいセンターを会場に行われました。4回目のことは、県内外から過去最高の48チームの踊り子たちが集結し、真夏を思わせる炎天下の下で躍動感あふれる熱い演舞を披露しました。

観客が大いに沸いたのは、ふれあいセンター会場で行われたYOSHAKOI旗振連合勇姿会による特別演舞。東北各地から集まったメンバーが自チームの旗を持ち寄り、約20分にわたり競演しました。次々と舞い上がる大旗に、来場者は大きな拍手で応えていました。

水辺に広がる子どもの笑顔 身近な水生生物などを観察

胆沢区の夏の風物詩「夏季自然観察会」は、7月31日から8月6日までの4日間開催され、80人の元気な子どもたちが参加しました。観察会は生態系に配慮した区内のほ場整備地域内のため池・水路で行われ、大学生が子どもたちに水生生物の生態などを教えます。

子どもたちは、水中の生物を採取したり、ため池で遊んだりすることで、身近な自然や生物への理解を深めていました。胆沢第一小2年の菅原那月さんは「お兄さんお姉さんが、生き物の名前や特徴などを優しく教えてくれて、楽しく覚えることができました」と元気いっぱいの笑顔で話してくれました。

学生と子どもたちがメダカを放流



いさわ